

# 山本悠樹 YAMAMOTO YUKI ガンバ大阪

## 「プロになる」夢を叶えて、今春「ガンバ大阪」に入団。 新たな舞台で自らの進化とチームへの貢献を誓う。



**昔も今も「サッカーに関してだけは誰にも負けたくない」  
高校の時に味わった挫折感と、自分を支えた想いとは**

— 山本選手にとってサッカー競技の魅力とはどんなところでしょうか。  
ご自身のストロングポイントも合わせて教えてください。

**山本選手** 幼い頃から感じていたのは、まずシンプルに得点を生み出す楽しさ。もともと攻撃が好きだったので、ゴールを決めた時の面白さや爽快感は昔から変わりませんね。それと、子どもの頃からたくさんのチームや人と出会って、そこで教わったもの、みんなで乗り越えたことなど、サッカーというチームスポーツだからこそ得られた経験が数えきれないほどありました。それも大きな魅力だと思います。自分の強みは、ゴールでもアシストでも、攻撃の面で相手にとって怖い存在であるというか…結果でチームを引っ張っていきけるところかな。ふだんはあまり騒いだりするタイプではなく落ち着いているんですけど、サッカーに関してはものすごい負けず嫌いなんです。内に秘めた想いもありますし、子どもの頃から「サッカーだけは誰にも負けたくない」と思ってプレーしてきました。

— 今までサッカーを続けてきた中で、「あの経験のおかげで今の自分がある」「これが自分を変えた瞬間」など、印象的だったできごとはありますか？

**山本選手** 「これまでの経験すべてが積み重なって、今がある」とは思っていますが…ターニングポイントと言えば、大学に進学したこと。僕は高校を卒業したらプロになりたいと思っていました。ところがある時Jクラブで練習させていただく機会があり、そこで自分の技術が通用しないことを肌で感じたんです。高校生の時は、より攻撃に特化したプレーヤーで、守備はあまりいい評価を得られていませんでした。自分でもそれは分かっていたんですが、攻撃面で通用している部分が少なからずあったので、自信を失うことはなかったんです。でもそのJクラブで練習に参加した時、もともと苦手な守備だけでなく、攻撃でも自分の良さを1つも出せない状態でした。それで「このまま高卒でプロになって何もできない」と思って大学に進学させてもらったんですけど、僕としては逃げるような形で大学に行ったという感覚で…。個人的に、すごい挫折を感じたできごとでした。

— ずっと目標にしていた高校卒業後のプロ入りを一旦あきらめた後、大学ではどんな想いでサッカーを続けてこられたのでしょうか。

**山本選手** 挫折感は味わいましたが、「4年後に、もう一度プロになるための挑戦をしよう。そのために大学4年間を頑張ろう」と決意したんです。打ちのめされたあの時、「自分はもっと変わらなければいけない、一皮も二皮もむけた自分にならない」と強く思えたのは、絶対にプロの世界にチャレンジするんだという想いがあったからこそ。大学では、守備と攻撃のどちらも、より精度を上げていかなければと考えました。挫折によって課題が明確になったとも言えますね。

